

第3．沿岸域の現状と特性

1．自然

(1)伊勢湾の概要

伊勢湾は、日本の中央に位置し、海岸線延長 660 km、水域面積 2,342k m²の規模を持ち、伊勢湾（狭義）(1,738k m²)と三河湾(604k m²)に大別される。

伊勢湾の平均水深は 16.8m で、東京湾、大阪湾に比較して浅く、また-10m 以浅の浅場においても全水域面積の約 26%で、東京湾、大阪湾よりも広い。

約 20km と狭い湾口部に大小の島々が存在し、かつ、湾中央部ですり鉢状であることから、外海水との水交換が悪く、汚濁物質が蓄積しやすい閉鎖性水域である。

表2 - 2 三大湾の現況

	伊勢湾(三河湾を含む)	東京湾	大阪湾	備考
海岸線延長(km)	660	776	630	
水域面積 (k m ²)	2,342	1,160	1,400	()は水面積に対する割合
-10m 以浅面積(k m ²)	620(26%)	360(31%)	140(10%)	
埋め立て面積(k m ²) (昭和 20 年 8 月 ~ 平成 3 年 3 月)	79(13%)	157(26%)	85(14%)	()は全国比
平均水深(m)	16.8	38.6	27.5	伊勢湾は伊良湖岬から鳥羽市を結ぶ北側の海域
容積(億 m ³)	394	621	440	
流域面積 (k m ²)	17,675	7,540	5,737	
流域人口 (千人)	10,317	35,530	19,340	

資料：三重県「伊勢湾再生ビジョン策定調査報告書」(平成13年)

(2)海岸線形状と防災

伊勢湾の海岸線形状は、木曾岬町から楠町までの区域は直立護岸が中心であるが、鈴鹿市以南は津市や松阪市の一部海岸を除けば、大部分が砂浜であり一部干潟も見られる。

一方、海岸の防災面については、「三重県水防計画」(平成12年度)で示された防護面の評定をもとにAランクを図示する。なお、この評定は3段階(A：水防上最も重要な区間、B：水防上重要な区間、C：要注意区間)である。Aランクに指定されているのは、長島町の南部、川越町の北部浄化センター付近、津市の陸上競技場付近、香良洲町及び三雲町の東護岸部分などであり、水防上の対応が求められている。

 図；海岸線形状分布図 (砂浜・岩礁・直立護岸)


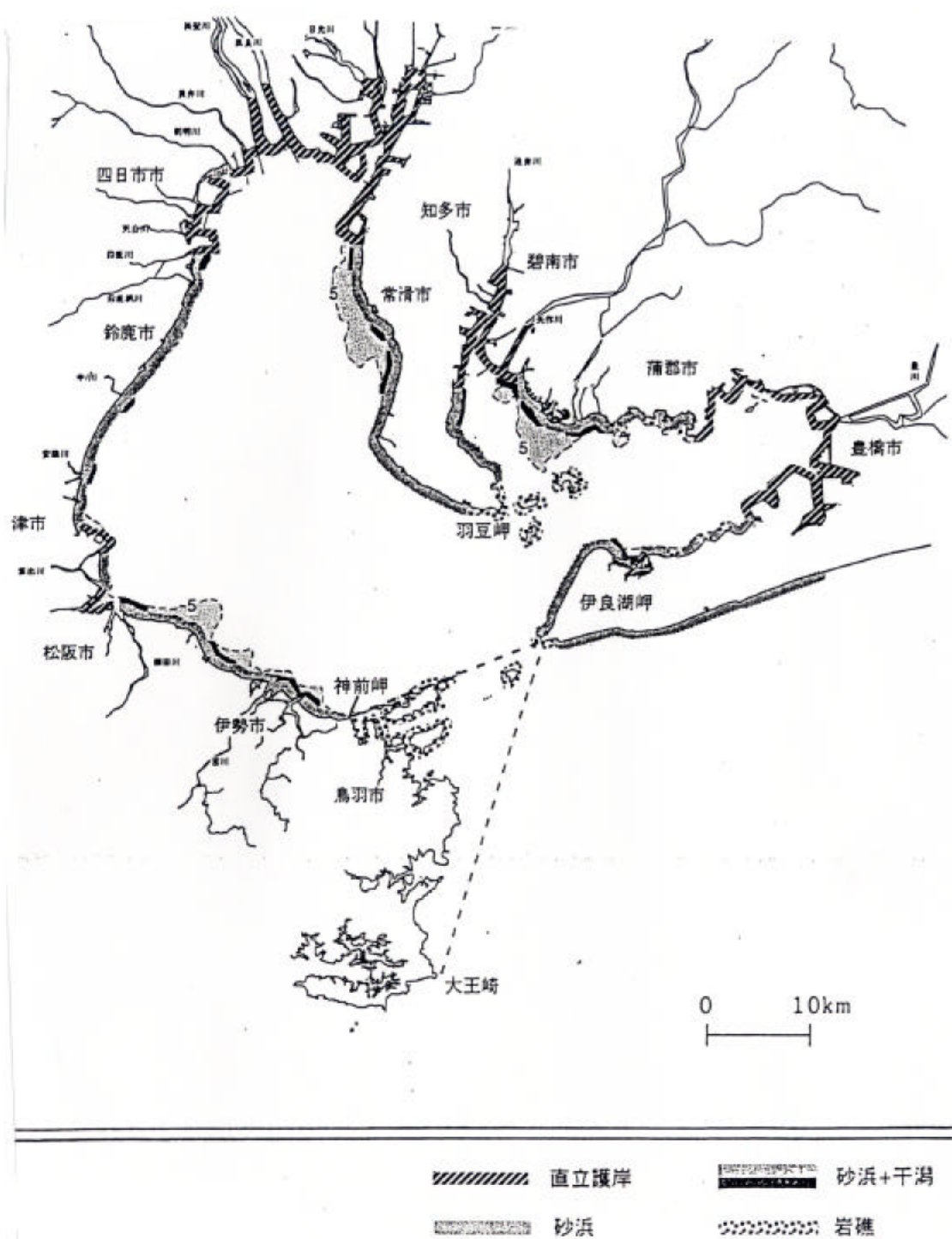
 図；重要水防区域 (Aランク)

図 2-2 海岸線形状分布図



出典:伊勢湾沿岸域における総合的管理の実現に資する社会資本整備計画調査報告書(国土交通省 平成 13 年)

图 2 - 3 重要水防区域 (評点 A)



資料：三重県水防計画（平成 12 年度）

(3)環境資源

伊勢湾沿岸には国立自然公園 1 カ所、県立自然公園 2 カ所が存在する。伊勢志摩国立公園は二見町全町域、伊勢市の一部、水郷県立自然公園は木曾岬町と長島町の干拓地を除く全町域、桑名市の一部、伊勢の海県立自然公園は鈴鹿市から津市と香良洲町の海岸線に沿ってベルト状に各々指定されている。

鳥獣保護区等（鳥獣保護区・休猟区・銃猟禁止区域）が広域的に指定されているほか、吉崎海岸以南ではウミガメの産卵地も各地に存在している。

また、干潟は松阪市の松ヶ崎・獵師の漁港周辺や松名瀬海岸地先、伊勢市の五十鈴川河口部を中心に三雲町～松阪市、伊勢市～二見町に残されているほか、津市以北の河川の河口部に点在している。一方、藻場については三雲町以南から伊勢市の一部、特に明和町の地先において広く分布している。干潟、藻場とも、年々その分布域は減少している。


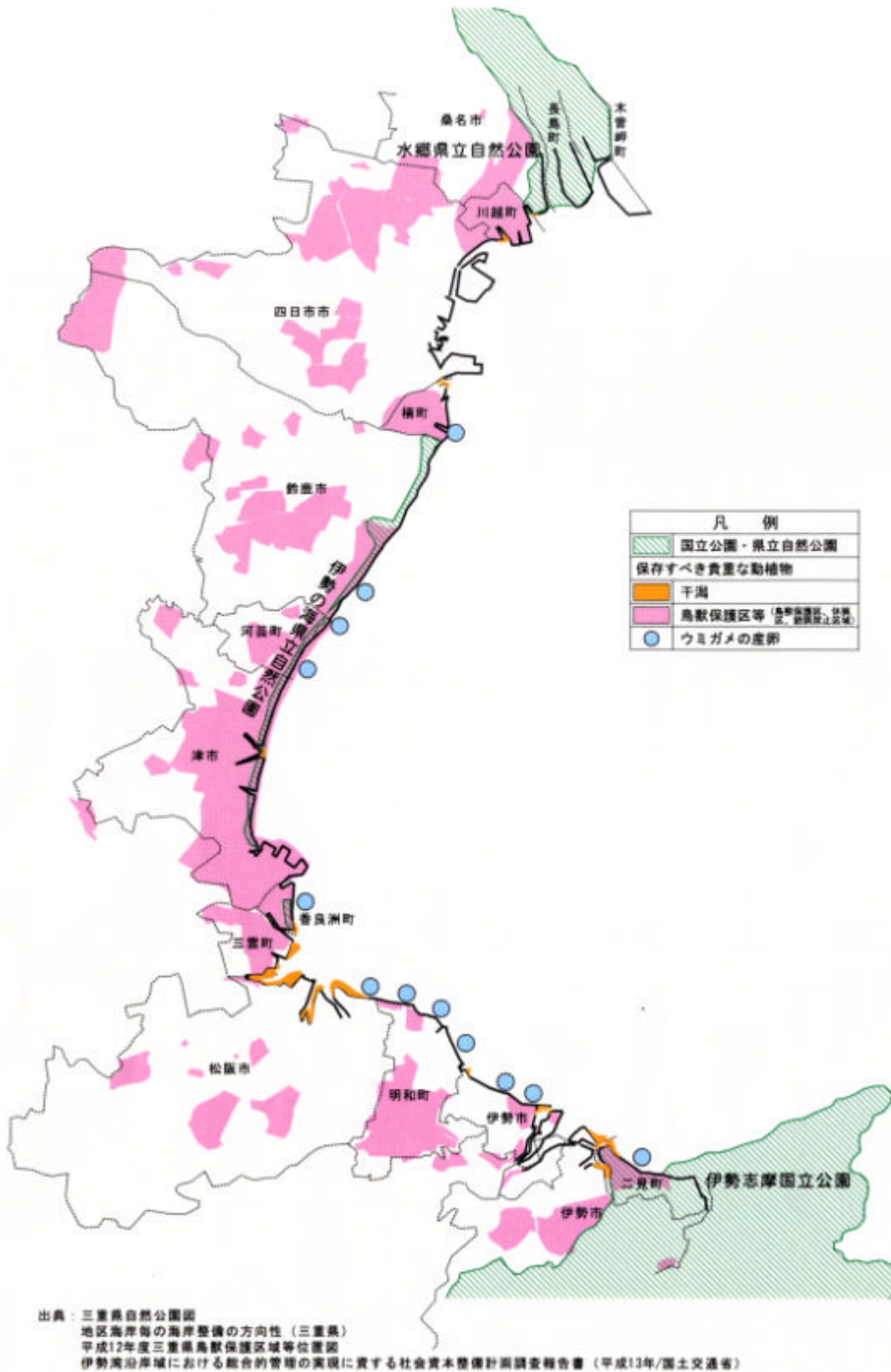
  図；環境保全資源

図2-4 環境保全資源




2 社会・経済

(1)人口・市街化状況等の特徴

伊勢湾沿岸は人口や産業の集積が最も進んだ地域であり、平成12年国勢調査によれば、伊勢湾沿岸市町村の人口は1,083,458人で三重県総人口の58.3%を占めている。

一方、市街化状況の特徴をみても、伊勢湾沿岸は人口集中地区が広く分布していることがわかる。中でも、三重県を代表する四日市市、鈴鹿市、津市などの諸都市において、伊勢湾の海岸線の間近まで人口集中地区が迫っている。地域住民の生業や日常生活と伊勢湾が密接なつながりを持っていることが想定される。

 図；市街化状況

(2)歴史・文化の特徴

伊勢湾沿岸の地域は古くより良港に恵まれた地域であり、港を中心に発展したまちが多い。史跡や歌碑・文学記念碑等の歴史的・文化的な資源が数多く分布しているが、中でも海にまつわる資源が多いことが特徴である。

また、海と関わりのある神社仏閣も数多く、桑名の赤須賀神明社の石取祭り、二見町の二見輿玉神社の夫婦岩大注連縄張り神事など、著名な祭典が開催されている。


 図；歴史資源

图 2-5 市街化状况

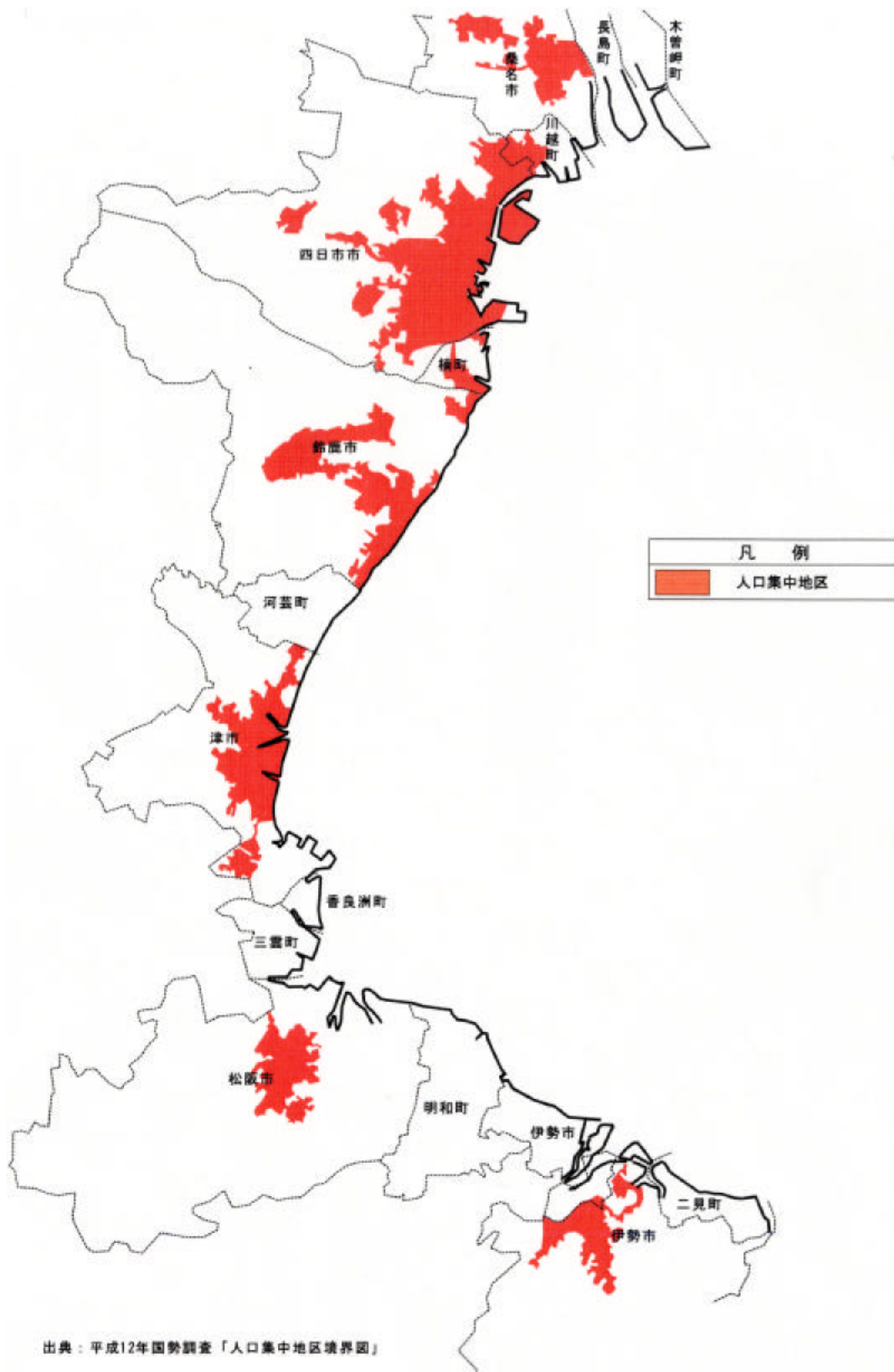


図 2 - 6 歴史資源



(3) 漁業

伊勢湾は、国内有数の生産性の高い内湾性漁場であり、三重県の水産業にとって重要な地位を占めている。伊勢湾沿岸では、四日市港の石原地区及び津松阪港の伊倉津地区の一部を除く全ての前面海域において黒海苔が分布しており、四日市港の霞ヶ浦地区から石原地区及び津松阪港の伊倉津地区の一部を除き海苔養殖が実施されている。また、伊勢湾では、あさりやえびを中心とした沿岸漁業が盛んであり、湾内全域が四季を通じて小型底曳網、まき網、船曳網、刺網などの良好な漁場となっている。その一方で、漁業従事者の減少等による経営基盤の弱体化が進行している。

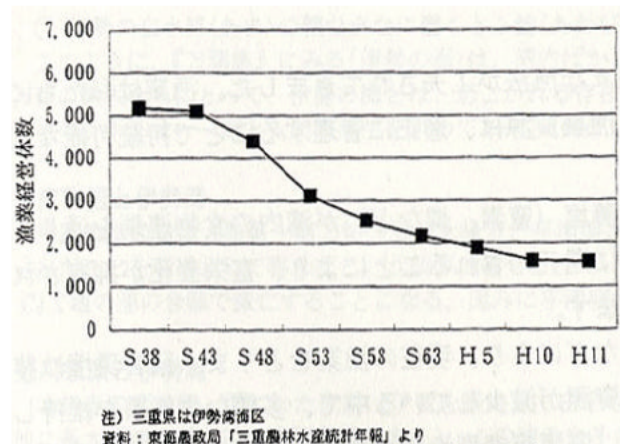


図2-7 漁業経営体数の推移

☞ 図; 沿岸漁場の状況 (魚類・黒海苔等)

☞ 図; 沿岸漁業の状況 (海苔養殖等)

(4) 観光・レクリエーション

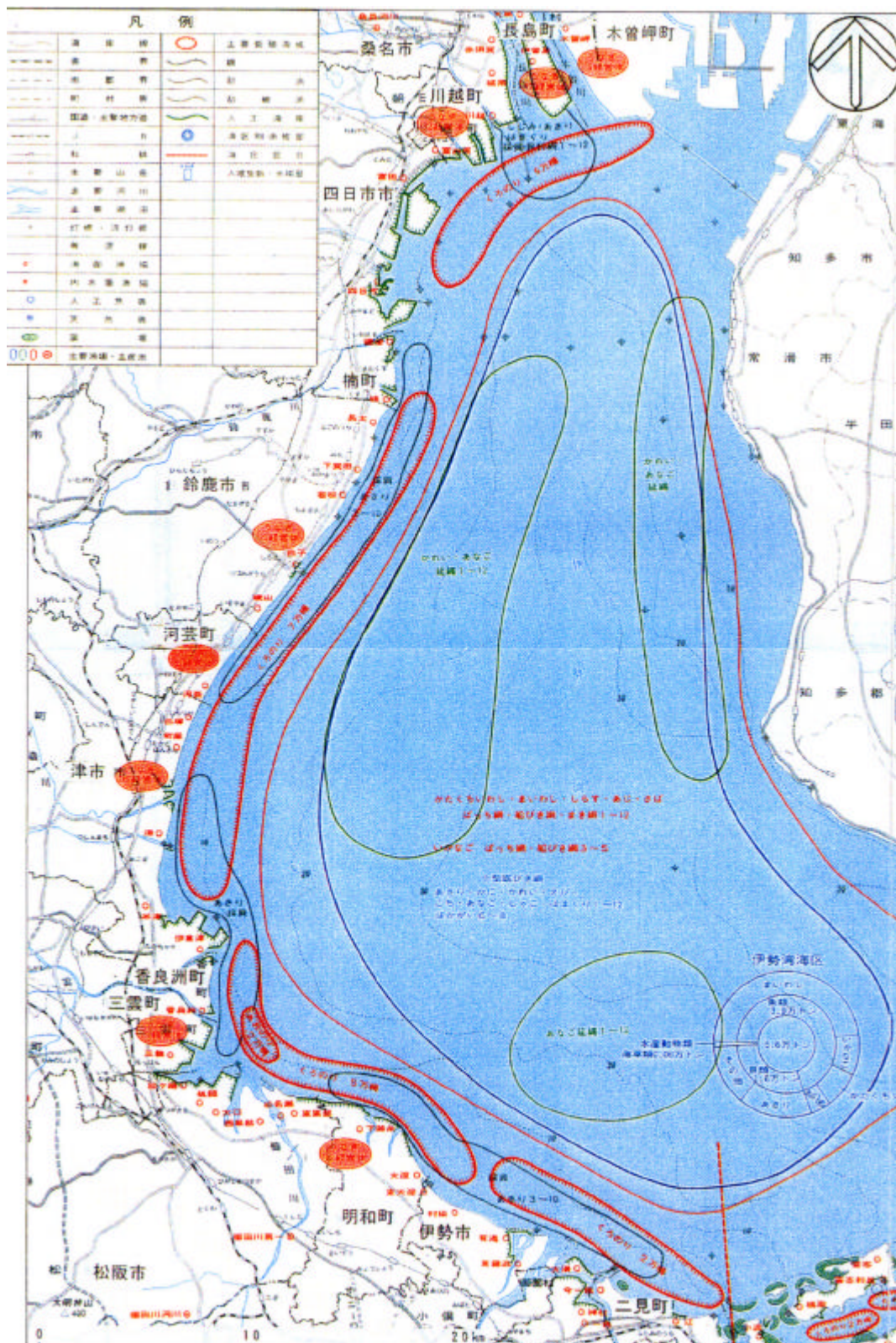
海水浴場が鈴鹿市以南の千代崎、鼓ヶ浦、贅崎、阿漕浦、御殿場、香良洲、松名瀬、大淀、二見浦に分布し、ヨットやウインドサーフィンが行われているところもある。また、伊勢湾マリーナ (四日市市)、白子マリーナ、ヤマトマリーナ (鈴鹿市)、マリーナ河芸 (河芸町)、伊勢湾海洋スポーツセンター (津市)、松阪マリーナ (松阪市)、マリーナ伊勢 (伊勢市) なども各地に整備されている。

また、伊勢湾沿岸には長島温泉や二見浦などの知名度の高い観光地をはじめ、多くの観光施設が分布している。これら主要な観光施設のほか、海水浴場やイベントを含めた沿岸部の観光入込客数を見ると、長島温泉の約 500 万人、二見浦の約 200 万人、阿漕浦や御殿場海岸など津海岸の約 71 万人が突出している。

☞ 図; 観光・レクリエーション資源

☞ 表; 沿岸部の主要観光施設における観光入込客数

図2-8 沿岸漁場の状況（魚類・黒海苔等）



出典：三重県沿岸漁場図（三重県水産振興課 平成元年）

図2 - 9 沿岸漁業の状況（海苔養殖等）

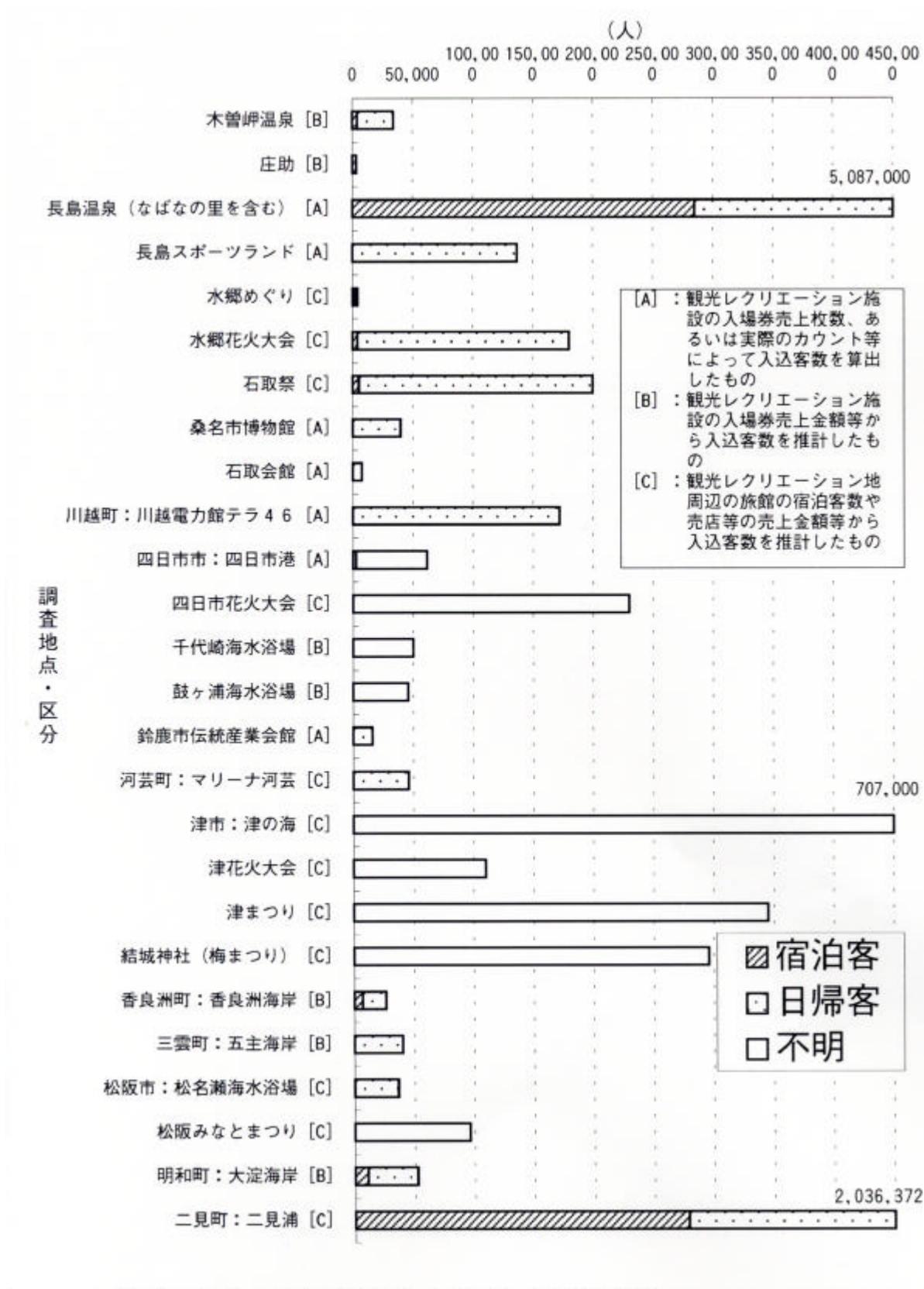


出典：三重県沿岸漁業構造図（三重県水産振興課 平成元年）

図 2 - 10 観光・レクリエーション資源



図2-11 観光入込客数（平成11年）




資料：「平成11年 全国観光動向」（社団法人日本観光協会）

3. 社会基盤施設の特徴

(1) 港湾・漁港


伊勢湾沿岸では古くから海運が開かれ、特定重要港湾である四日市港、重要港湾である津松阪港を擁し、埋立事業や港湾機能の整備が取り組まれてきた。また、このほかにも桑名港、千代崎港、白子港、宇治山田港の4つの地方港湾を擁し、物流の拠点として地域産業に大きな役割を果たしている。

一方、豊富な漁場を活用した漁業も盛んな地域であることから、長島町から二見町にわたる幅広い範囲に16の漁港（地方港湾は除く）が分布している。

 図；港湾・漁港

(2) 鉄道・道路

三重県の北勢地域から中南勢地域、伊勢・志摩地域にかけて、主要な鉄道や国道が臨海部周辺を通過しており、ほぼ伊勢湾の海岸線に沿った形となっている。これらの地域は県下でも人口の集中する地域であり、近鉄名古屋線・山田線・鳥羽線のほか、JR関西本線、紀勢本線、参宮線や伊勢鉄道が南北に縦貫していることから、多くの県民の交通手段となっている。また、道路についても、内陸部においては東名阪自動車道、伊勢自動車道及び国道1号が整備され、沿岸部においては国道23号、国道42号が、北勢地域の四日市の工業地帯や桑名・鈴鹿・津・松阪・伊勢等の市街地を縦貫し、産業面や生活面における中心軸を形成している。

 図；鉄道・道路

(3) 公園・緑地等

川越町から香良洲町にかけて公園・緑地が分布しており、近隣住民らによる日常的な散歩と憩いの場に利用されている。

 図；公園・緑地等

图 2 - 12 港湾・漁港



図 2 - 13 鉄道・道路

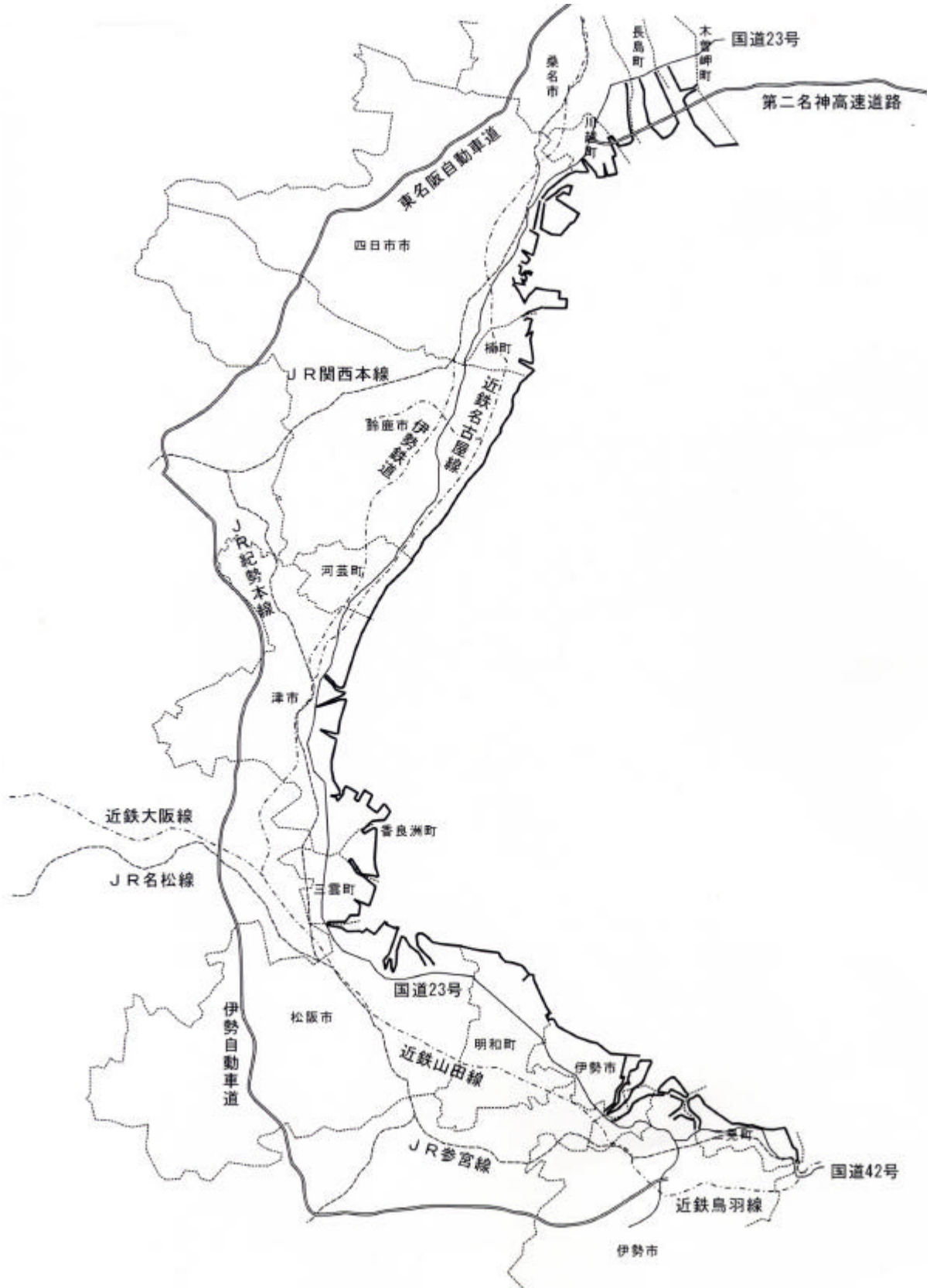


図2 - 14 公園・緑地等



4 . 環境保全

行政・住民団体を問わず、海岸清掃や動植物の保護、自然観察、植栽などの取組が吉崎海岸、白塚海岸、吹井ノ浦など各地で行われている。また、阿漕浦では住民を中心としたNPO活動により、植栽や清掃活動のほか、「伊勢の国、阿漕が浦。迎月の宴」が取り組まれ、能「阿漕」の開催がなされている。


 図；海岸保全活動

図 2 - 15 海岸保全活動

